

< 講座と講師（予定） >

●「空気の授業」総論

——私たちはいま、どんな空気の中にいるのか

柳沢幸雄さん（やなぎさわ・ゆきお 東京大学名誉教授 工学博士）

プロフィール：元開成中学校・高等学校校長。北鎌倉女子学園学

園長。1990年代「シックハウス症候群」禍に対し、発症被害者の声を聴取し、その原因と対策に向け尽力する。その後柔軟剤、マイクロカプセルによる健康被害についても注視する。優れた教育者としても著名で、著書多数。

●新時代の見えない「障害」化学物質過敏症

——発症者との共生を考える

寺田良一さん（てらだ・りょういち 社会学者）

プロフィール：～2023年3月明治大学文学部教授。環境運動・環境NPOの国際比較研

究を行い、環境リスクや環境政策にも提言をおこなう。『環境リスク社会の到来と環境運動』（晃洋書房）など著書多数。研究レポートに「化学物質過敏症患者の『二重の不可視性』と環境的『社会的排除』」（2016年）。

●柔軟剤被害と法的解釈 社会復帰、憲法、人権回復、

——救済か棄民か、被害者のできることに、社会へのアプローチ

福島瑞穂さん（ふくしま・みずほ 衆議院議員）

●脳科学者としてみた 柔軟剤と化学物質過敏症

——「因果関係」についての一考察

山口和彦さん（やまぐち・かずひこ 脳神経学者）

プロフィール：

医学博士・理学博士。国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター 神経研究所・微細構造研究部 客員研究員。

●精神障害と化学物質過敏症

——精神科医療と発症者からのアプローチについて

石川憲彦さん（いしかわ・のりひこ 精神神経科医）

プロフィール：

東京大学医学部附属病院小児科、同精神神経科、マルタ大学児童精神科客員研究員、静岡大学教授（保健管理センター所長）などを歴任。長く精神障害をともなう子どもたちや不登校、ひきこもる子どもたちの診療や支援活動をともにし、投薬に慎重な医師としても著名。2004年から2018年3月まで「林試の森クリニック」院長。

●自分の問題を社会の問題にするために

——他者の痛みへの想像と理解

安藤聡彦さん（あんどう・としひこ 埼玉大学教育学部教授）

プロフィール：

埼玉大学教育学部教授、同附属中学校校長。公益財団法人トトロのふるさと基金理事長。専門は環境教育学、社会教育学。編著に『公害スタディーズ 悶え、哀しみ、闘い、語り つぐ』（ころから）ほか。

●カナリアの知と専門知のあいだで

——身近で深刻な環境汚染としてのシックハウス症候群・化学物質過敏症を生きる

山森亮さん（やまもり・とおる 経済学者）

プロフィール：

経済学と哲学における必要概念、イギリスの労働者階級の女性解放運動における連帯経済と脱成長思想などについて研究。職場の改装でシックハウス症候群を発症。患者会などで出会った仲間たちと過去の公害闘争などに学びながら、新たな被害者を生まない社会を模索中。

●香害及び化学物質過敏症に対する経済学からのアプローチ

川瀬晃弘さん（かわせ・あきひろ 経済学者）

プロフィール：

東洋大学経済学部教授、博士（経済学）。柳沢幸雄氏との共著論文に「化学物質過敏症に対する科学と政策の役割. 計画行政. 2023. 46. 2. 27-32」。監訳書に『ハーバード式Zoom 授業入門 オンライン学習を効果的に支援するガイド』（青弓社）。

●那須まちづくり広場での取り組み

——共生と香害とその取り組みの途中経過

コトリコーヒー主宰・庄司良博さん（しょうじ よしひろ）

プロフィール：

2011年東北大震災を機に、地域住民の集うカフェを目指し「コトリコーヒー」を開業。県外からも注目されるカフェとして運営中に、顧客からの柔軟剤臭で体調不良が続く。やがて、夫婦ともに化学物質過敏症と診断されカフェ運営を断念する。その後、〈那須まちづくり広場〉でパン工房を再開し、フレグランスフリー実行委員として実践活動を続ける。